

E 12 農村三世代家族の研究(1) - 母と妻のライフスタイル比較
お茶女大家政 ○佐野志津子 袖井孝子
常葉学園大 佐藤宏子

目的：農村三世代家族における、母と妻のライフコース、ライフスタイルの比較・考察を行なう。

方法：静岡県志太郡岡部町朝比奈地域の三世代家族の上二世代(母と妻)それぞれに対し、1986年7月下旬に訪問面接による聴き取り調査を行なった。分析対象は、母・妻ともに有効な回答を得られた票129組である。分析は、東京大学大型計算機センターのコンピュータを用い、SPSSXによる単純集計・クロス集計・検定等を行なった。

対象者の基本的属性：①平均年齢…母68.5歳、妻39.4歳。②出身…母の67%・妻の45%が岡部町出身。③学歴…母の88%・妻の51%が義務教育終了程度。④職業…27%が専業農家、57%が兼業農家、16%が非農家。⑤家族構成…63%が完全三世代家族、37%が父欠損三世代家族。⑥同居の親…89%が夫才、11%が妻才。

結果：①結婚時、第一子出産時等の年齢については、世代間で大きな差はない。末子出産時の年齢については、差がある。②母・妻各世代における出身地別・学歴別・職業別による年齢差(結婚時、第一子出産時、末子出産時等の年齢差)は、わずかである。③出産人数は、戦前結婚世代と戦後結婚世代で大きく違い、女性の第一子出産後のライフコースを決定する主要な要因と考えられる。④配偶者選択パターン、結婚式の場所、結婚前の仕事、出産場所等を見ると、若年者ほど画一的である傾向がうかがえる。⑤伝統・行事食等に対する意識・価値観については、母と妻で相違が認められる。